

## 平成26年度 立山町社会福祉協議会事業報告

「地域の崩壊」「家族の崩壊」といわれる社会構造の変化は、地域内での人々の交わりや家族関係の希薄化を招き、孤独、孤立、虐待、いじめ、介護放棄など、ますますその深刻度を増してきています。このような状況の中で「家族」「地域」への着目度が一層強まっています。

当町においても、少子高齢・核家族化が顕著な状況で、一人ぐらし世帯・高齢者のみの世帯が増加し、中山間地域のみならず市街地と呼ばれる地域においても、冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難な「限界集落」としての様相を呈する状況にあります。

近年の社会保障制度改革は、需要の増加を抑制しながら、予防・自立に重点を置くことで、年金・介護・健康といった社会保険制度を将来にわたって持続可能なものとするとともに、家族を核とした地域での「皆で支え合う」「支え合いの循環」を将来の社会のひとつの姿として「団塊の世代」も含めた「地域への参加」が強く提唱されています。

国内における景気の動向は、平成25年7月21日に行われた参議院選挙の結果、衆参両院で多数派政党が異なるという“ねじれ現象”が3年ぶりに解消し、現政権が示す成長戦略に対する国民の期待は一段と高まっている中で、国の金融融和政策により、低迷していた株価の上昇や円安への移行が進み、景気回復への兆しが見え始めたところでもあります。しかし、海外景気の下振れの懸念や平成26年4月からの消費税の引き上げにより、景気の先行きに対する不透明感を払拭することができない状況となっています。

安心して暮らすことの出来る地域社会の整備・実現・実践を掲げ平成22年12月に全国社会福祉協議会が策定した、「全社協福祉ビジョン2011の概要～ともに生きる豊かな福祉社会を目指して～」とする行動計画の実現に向けて今後一層、市町村社協における活動の具体化と、それによる社協活動の強化に取り組むことが求められています。

このような状況の中、地域の人びとが住み慣れたところで安心して生活することのできる福祉の町を目指し、第2次立山町地域福祉活動計画に基づき、「みんなが輝く共生のまちづくり」の推進に向け、当協議会の役割はますます重要なものとなり、地域福祉の拠点として高齢福祉、障害者福祉、児童福祉それぞれの分野において、事業を進めているところです。

当協議会においては、地域の福祉力の底上げを目指し、「ふれあい活動事業」に加え「ケアネット活動事業」を取り入れ、高齢者から子育てまで幅広く、互いに協力しながら住みよいまちづくりを進めて来ました。

また、地域の福祉力向上の一手段であるボランティア活動の推進を図るため、ボランティア掲示板を設置し、情報の発信に努めると共に、近年各地で発生する災害時、被災者にとって精神的・体力的に大きな支えとなる災害救援ボランティア事業の推進に努めました。

地域住民の活動拠点として、平成24年6月4日に元気交流ステーションに移転し、町民の多様な福祉ニーズを的確にとらえ、互いに自立し、関係機関との連携や協働を密にして、① 地域福祉活動推進 ② 在宅福祉サービスの推進 ③ 総合的な相談援助 ④ ボランティア活動の推進 ⑤ 福祉教育の推進 ⑥ 高齢者福祉事業の推進 ⑦ 子育て支援の推進 ⑧ 日常生活自立支援事業の推進、を事業目標に掲げ積極的に展開してきました。

そして、未婚化・晩婚化の解消と結婚による定住人口の増加をめざして、独身男女の新たな出逢いを支援する⑨ 出逢い応援事業を年度途中から実施しました。

なお、主な事業等の取組みについては、次のとおりです。

## 1. 法人運営事業・その他の事業

### (1) 法人運営、役員活動事業

4月	理事会	4月 1日	元気交流ステーション
5月	25年度会計監査	5月15日	〃
5月	理事会	5月22日	〃
5月	役職員研修会	5月26日	〃
(災害救援ボランティアセンタースタッフ研修会)			
5月	評議員会	5月27日	〃
8月	県指導監査	8月28日	〃
8月	理事会	8月29日	〃
11月	理事会	11月28日	〃
12月	評議員会	12月 5日	〃
3月	理事会	3月19日	〃
3月	評議員会	3月25日	〃

### (2) 共同募金活動、日赤事業、立山善意銀行事務、町遺族会事務

### (3) 社会福祉協議会ホームページの開設、運営

閲覧数 (アクセス数) 56, 130回

## 2. 企画広報事業

広く町民に、福祉に対する理解と関心を高め、福祉意識の高揚を図るため福祉の集いを開催した。

第20回立山町福祉の集い 10月3日 町民会館 参加者 680名

立山町社会福祉協議会表彰 立山町老人クラブ連合会表彰

大会宣言 金婚夫婦お祝い 13組

講演 講師 東国原 英夫 氏 演題 「今求められる地域の活性化について」

## 3. 地域福祉推進事業

### (1) 地域総合福祉推進事業(ふれあい型・ケアネット型)への助成、活動強化に努めた。

第1回 地区社協会長・事務局長会議 5月30日 元気交流ステーション

第2回 地区社協会長・事務局長会議 9月 9日 〃

第3回 地区社協会長・事務局長会議 11月18日 〃

第4回 地区社協会長・事務局長会議 3月 4日 〃

#### ・ケアネット事業活動実績

H26年度：実施地区数 10地区 援助対象者 161名 活動参加者数 275名  
訪問等活動延べ回数 10,645回

H25年度：実施地区数 10地区 援助対象者 179名 活動参加者数 298名  
訪問等活動延べ回数 10,915回

(2) ケアネットセンター運営事業

実施地区検討会・報告会等参加 8回

町内居宅介護支援事業所連絡会ケース検討会出席 8回

個別ケースの相談や会議への出席・開催 12回

(3) 福祉人材育成・支援事業

ふれあい活動員（福祉協力員）を58名配置し、サロン活動やケアネット活動への実施・協力を行った。

・ふれあい活動員・ボランティアサポーター委嘱及び研修会 4月28日 元気交流ステーション  
委嘱書の交付・ふれあい活動員、ボランティアサポーターの役割について

「ふれあい・おたすけ上手を考えよう」、「見守りについて考えよう」について研修

・ボランティア・ふれあい活動員合同研修会 2月4日 元気交流ステーション

「コミュニケーション技術を学ぼう」 講師 富山短期大学 福祉学科 教授 関 好博 氏

・各地区のふれあいいきいきサロン運営者・協力者を対象に連絡研修会を行った。

第1回ふれあいいきいきサロンリーダー研修会 7月11日 元気交流ステーション

「サロンの企画を考えよう！～サロン活動と介護予防」 講師 町地域包括支援センター職員・サロンリーダー

第2回ふれあいいきいきサロンリーダー研修会 7月18日 元気交流ステーション

「サロンの開設と継続を考えよう！」 講師 サロンリーダー

・各地区の子育てサロン運営者・協力者を対象に連絡会を行った。

子育てサロンリーダー連絡会 6月27日 元気交流ステーション

(4) 住民参加型地域福祉事業

・地区社協を中心にふれあいいきいきサロンランチを開設し、高齢者の生きがいや社会参加意欲を高めた。

ふれあいいきいきサロンランチ 延べ 451回 参加者 延べ 8,941名

・地区社協単位で子育てサロンを開設し、主に未就所(園)児と家族を対象に、子育て期の不安解消や情報交換など子育て支援を行った。

子育てサロン 延べ 77回 参加者 延べ 2,239名

(5) 地域福祉活動計画の推進

平成25年度～29年度の5ヵ年を計画期間とする地域福祉活動計画の推進委員会を設置し、事業の点検・評価を行う仕組みを検討した。事務局内検討会を12回実施した。

(6) ふれあい総合相談事業の実施

弁護士等の専門相談、民生委員児童委員による心配ごと相談等の一般相談を実施した。また、随時事務局職員が相談援助を行った。

町報や社協だより「そよかぜ」に相談センターの相談日を掲載し広報に努めた。

・心配ごと相談員及び職員を対象に連絡会、研修会を開催した。

心配ごと相談員連絡会 7月15日 元気交流ステーション

内容 事例検討、情報交換

心配ごと相談員研修会（ふれあい活動員、ボランティアサポーター・リーダー合同研修会）

2月4日 元気交流ステーション

講義 「コミュニケーション技術を学ぼう」

講師 学校法人 富山国際学園 富山短期大学 福祉学科 教授 関 好博 氏

・相談件数 法律相談 43件 心配ごと相談 9件 職員対応相談 97件

#### 4. 助成事業

社会福祉団体等6団体に活動費の助成を行った。

#### 5. 在宅福祉サービス推進事業

##### (1) 家族介護者交流事業

在宅で要介護者の介護をされている方々を対象に、介護支援専門員や保健師等による介護相談、健康相談、介護者同士での情報交換を行った。

家族介護者の集い 春日温泉 ゆーとりあ越中

4回開催 6月24日、9月26日、11月10日、2月25日

参加者 36名 ボランティア3名

##### (2) 高齢者外出支援サービスの実施

要介護認定を受けている高齢者の方で、在宅で日常的に車椅子を使用している方を対象に通院等の外出支援を行った。

登録者数 7名 利用延べ日数 65日 利用延べ回数70回

#### 6. ボランティア活動事業

(1) ボランティアコーディネーターの設置 ボランティアセンター相談件数 540件

##### (2) ボランティア情報の発信

ボランティアに関する情報を社協だより「そよかぜ」の紙面や町内5ヵ所に設置した掲示板で紹介した。

##### (3) 調査研究事業

町民の生きがいづくり、ボランティア活動を支援する方策を考えるため、福祉の店の活動の先進地視察や全国ボランティアフェスティバルへ参加した。3回開催 参加者延べ 38名

第1回 6月18日 富山県社会就労センター協議会 常設店「はーもにあ」視察

第2回 9月8日 社会福祉法人 高岡市社会福祉協議会 高岡市ボランティアセンター  
運営福祉ショップ「さちや」視察

第3回 9月28日～29日 全国ボランティアフェスティバル岐阜 長良川国際会議場他

##### (4) ボランティア体験普及事業

・「傾聴ボランティアフォローアップ講座」

傾聴ボランティアフォローアップ講座を開催した。傾聴活動の意義や基礎を学ぶ研修会、施設での実習、講演会への参加を通して、傾聴活動の推進を図った。5回開催 参加者延べ 39名

講師 第1～4回 富山傾聴ボランティアピアの会 小柴 春枝 氏

第5回 特定非営利法人 ホールファミリーケア協会 理事長 鈴木 絹英 氏

第1回 4月10日 元気交流ステーション (研修1)

第2回 4月24日 特別養護老人ホームふなはし荘 (実習1)

- 第3回 5月 8日 元気交流ステーション (研修2)
- 第4回 5月22日 特別養護老人ホームふなはし荘 (実習2)
- 第5回 5月24日 富山市総合社会福祉センター3階大ホール (講演会参加)

・「社会参加促進サポーター講座」

「身体の介助、心の支援、知識と理解」というテーマのもと、高齢者や障害者に関する地域や車いすの介助等に対する理解を深めボランティアの養成を図った。

3回開催 参加者延べ 40名

- 第1回 7月 3日 元気交流ステーション  
講師 日本赤十字社富山県支部 事業推進課看護主任 橋本 美紀 氏
- 第2回 9月19日 元気交流ステーション  
講師 富山傾聴ボランティアピアの会 小柴 春枝 氏
- 第3回 10月 7日 元気交流ステーション  
講師 特定非営利法人くるみ 理事長 岡本 久子 氏

(5) ボランティアリーダー研修事業

ボランティアセンター登録グループやボランティアサポーターを対象に、ボランティアリーダー連絡研修会を開催した。 4回開催 参加者延べ 95名

- ① ボランティアリーダー連絡会 6月 2日 助成金、ボランティアセンター事業について
- ② ボランティアリーダー研修会 7月 7日 登録グループ決定について、講演「レクリエーションについて」 講師：レクリエーションコーディネーター 金山 幸子 氏
- ③ ボランティアリーダー・サポーター合同連絡会 10月14日 ボランティアまつり準備会議
- ④ ボランティアリーダー・サポーター合同研修会 2月 4日

「コミュニケーション技術を学ぼう」 講師 富山短期大学 福祉学科 教授 関 好博 氏

(6) ボランティアサポーター設置事業

ボランティアサポーターを10名配置し地域でのボランティア活動情報の提供等を行った。

連絡会を開催し、情報交換や各地域でのニーズを持ち寄り検討した。福祉人材育成の視点から、子どもボランティア体験学習会等への参加協力も行った。 6回開催 参加者延べ 74名

- ① ボランティアサポーター委嘱式・研修会 4月28日 元気交流ステーション
- ② ボランティアサポーター3町村(上市町・舟橋村)合同研修会 6月20日 //
- ③ ボランティアサポーター連絡会 7月11日 //
- ④ ボランティアサポーター連絡会 11月 6日 //
- ⑤ ボランティアリーダー・サポーター合同連絡会 10月14日 //
- ⑥ ボランティアリーダー・サポーター合同研修会 2月 4日 //

(7) ボランティアまつり&福祉映画上映会の開催

ボランティア活動の啓発・推進を図るため、ボランティア連絡協議会と共催した。ボランティア団体の紹介・活動披露・福祉施設物品販売・ボランティア体験コーナー等の設置を行った。また、善意銀行の協力で映画を上映した。

11月15日 町民会館 参加者 560名

(8) 児童・生徒のボランティア活動普及事業

推進校10校(小学校8校、中学校1校、高校1校)に活動費助成を行った。

## (9) 福祉教育地域指定推進事業

ボランティア団体や高校・放課後児童クラブと連携し、町内の小学生を対象に子どもボランティア体験学習会を実施した。また、保育関係者・教育関係者・放課後児童クラブ指導員・ボランティアを対象に「地域のお年寄りや障がいのある人たちと交流しよう！！高齢者疑似体験と手話・音訳活動等の取組み」を主なテーマとして福祉教育推進セミナーを開催した。

### ・子どもボランティア体験学習会 7回開催 参加者延べ 139名

手話（音訳・点訳）体験（全2回） 7月29日、8月7日 元気交流ステーション  
高齢者疑似体験（全2回） 7月31日、8月12日 富山県介護実習・普及センター  
施設ボランティア体験（全3回）7月25日 特別養護老人ホームふなはし荘、  
8月8日 みらいぶくつろぎサロン、8月19日 老人保健施設陽風の里

### ・福祉教育推進セミナー 2回開催 参加者延べ 50名

第1回 福祉教育推進セミナー 5月16日 元気交流ステーション

講義 「地域交流活動について考えよう～心の育成とキャリア教育の視点から」

講師 国立大学法人 富山大学人間発達科学部 教授 隅 敦 氏

第2回 福祉教育推進セミナー 2月17日 元気交流ステーション

講義 「“地域” “交流” から学ぶこと～高齢者や障害者との関わりを中心に～」

講師 学校法人 富山国際学園 富山国際大学 子ども育成学部 准教授 村上 満 氏

## (10) 災害救援ボランティア活動支援事業

災害支援の全体像及び災害救援ボランティアセンターの概要と役割について講演会と災害救援ボランティアセンターの立ち上げ訓練を行った。

災害救援ボランティアセンタースタッフ研修会（役職員研修会） 5月26日

元気交流ステーション 参加者48名

講義・訓練 被災地の生活課題と支援、個々の役割を考えよう

～被災を考えるワークショップと立ち上げ訓練を通して～

講師 特定非営利法人 にいがた災害ボランティアネットワーク 事務局長 李 仁鉄 氏

## 7. 居宅介護支援事業

ケアマネジャーによる適切なケアプランの作成、介護給付費の管理

要介護1～5 月平均利用者数 128名

介護予防 月平均利用者数 25名

## 8. 居宅介護等事業（ホームヘルプサービス）

(1) 要介護認定者の訪問介護	要介護1～5	利用時間	3, 518時間	月平均利用者	33名
	要支援1～2	利用時間	2, 113時間	月平均利用者	30名
(2) 障害者の訪問介護	身体障害者	利用時間	312時間	月平均利用者	28名
	知的障害者	利用時間	254時間	月平均利用者	21名
	精神障害者	利用時間	285時間	月平均利用者	25名
(3) 生活管理指導員派遣事業		利用時間	99時間	月平均利用者	2名

(4) 実習生受け入れ 4名

富山短期大学	6月 9日～13日	1名
富山医療福祉専門学校	6月16日～20日	1名
	6月23日～27日	1名
富山福祉短期大学	8月18日～22日	1名

9. 日常生活自立支援事業

自分ひとりで契約などの判断をすることが不安な方やお金の管理に困っている方などを対象に本人や関係機関の相談に専門員が応じた。

判断能力等の低下により本事業の利用が適している方とは契約し、金銭管理等のため生活支援員が訪問し、援助を行った。

利用者 3名 生活支援員登録者 4名 制度利用等相談件数 10件

10. 高齢者福祉推進事業

(1) みらいぶくつろぎサロン運営事業

誰もが集える常設型のサロンとして開催した。元気交流ステーションに集約されている保健福祉総合機能を活かした引きこもりの防止や介護予防に関する活動を取り入れたメニューを実施した。また、健康器具等の設置・教養講話やボランティアグループ等の活動披露・季節行事等を通して積極的な社会参加・仲間づくり・生きがいくくり・健康づくりの一助となる機会を提供した。

元気交流ステーション2階大広間 開催期間 6月 2日～ 3月31日

サロン開催日数199日 ボランティアグループ活動披露数 83回

季節の行事 5回(プレイベントお花見会・オープニング記念イベント・夏祭り・感謝祭・おひな祭り)

延べ利用者数 6,052名

(2) 福祉バスを運行し老人クラブの送迎及び福祉団体、地区社会福祉協議会等の諸行事の送迎を行った。

運行回数 延べ 272回(老人クラブ送迎運行回数 133回)

利用者数 延べ 4,640名

11. 子育て支援事業

・学童保育運営事業(放課後児童健全育成事業)

3校区6箇所、放課後・土曜日・長期休業日等に実施した。昼間保護者のいない家庭の低学年児童を対象に生活・遊びの場を提供し、児童の健全育成を図った。また、安全管理の徹底・運営の核となる指導員の確保及び資質向上を図るため、研修会の開催等運営管理に努めた。また、10月より午後6時30分まで時間延長を行った。

・実施場所 6ヵ所 中央第1・中央第2・中央第3：立山中央小学校放課後児童クラブ室内、利田：利田公民館内、利田第2：利田第2放課後児童クラブ室内、立山北部：立山北部小学校地域交流室内

・実施時間等 平日 学校終了時～午後6時30分、土曜日(中央第1放課後児童クラブ内で合同)

午前7時30分～午後6時30分、長期休み及び学校休業日 午前7時30分～午後6時30分

※日曜祝日、盆、年末年始は休業

- ・実施日数 291日 ・最大利用児童数 162名 ・最大雇用指導員数 42名
- ・保護者会及び説明会の開催 11回、指導員会議 各箇所 毎月1回、放課後児童クラブ指導員全体会議 4回、放課後児童クラブ指導員研修会 3回

※本事業は年度末に、「一般社団法人 立山子育て支援センター」へ業務引継を行った。

## 1.2. 基金運営事業

- (1) 社会福祉事業振興基金の管理、運営
- (2) ボランティア基金の管理、運営

## 1.3. 共同募金配分事業

- (1) 社会福祉協議会だより「そよかぜ」の発行 年6回 全世帯配布
- (2) 福祉育成・援助活動など諸事業の支援

- ・ふれあいいいきいきサロンランチ活性化事業

高齢者ふれあいいいきいきサロン、子育てサロン等に対して講師の派遣を行った。

22回派遣 参加者延べ 537名

講師 オカヘルスアップクラブ インストラクター

- ・住民支え合いマップづくり事業

住民同士のふれあいや支え合い活動を地図により可視化することで、地域住民の支え合いの実情や生活上の問題を具体的に把握し、共助の仕組みを検討した。

住民支え合いマップ実践セミナー 12月19日 釜ヶ淵公民館 参加者18名

実践 「新・支え合いマップづくり入門」

講師 住民流福祉総合研究所 代表 木原 孝久 氏

住民支え合いマップ入門セミナー 2月27日 元気交流ステーション 参加者24名

講義・実習 「新・支え合いマップづくり入門」

講師 住民流福祉総合研究所 代表 木原 孝久 氏

- ・地域歳末たすけあい助成事業

12月に全地区社協に助成金を配分した。高齢者宅への慰問・三世代交流やクリスマス会等の行事が実施された。

## 1.4. 生活福祉資金貸付事業

- (1) 生活福祉資金貸付事業

低所得者等へ生活福祉資金等の貸付・相談を行った。

取扱件数 8件 制度利用相談件数 12件 継続相談件数 94件

- (2) 生活困窮者自立促進支援事業

富山県東部生活自立支援センター（魚津市）と連携して、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者（生活困窮者）に対し支援を行った。

町報や社協だより「そよかぜ」に相談日を掲載し広報に努めた。

相談件数 2件 継続相談件数 42件

#### 15. 出逢い応援事業

- ・サポートセンター「おむすびくらぶ」設置し、結婚相談や情報交換を通して出逢いの場を提供し、結婚への支援を行った。

- ・センター運営体制

推進委員13名 支援員32名（プランナー10名・アドバイザー12名・サポーター10名  
センター長1名（社協事務局長兼任） コーディネーター1名（社協職員兼務）

登録会員53名（内訳：男性37名・女性16名）

※推進委員会の設置 円滑な運営と効果的な事業推進を図るために設置

立山町内で活躍する企業や団体、支援機関、学識経験者及びその他会長が必要と認めた者で組織し、立山町社会福祉協議会会長が委嘱する。

※支援員は、地域活動に参加している者で、結婚への支援及び地域の担い手育成に理解と関心を持ち、その役割遂行に支障のない者を、立山町社会福祉協議会会長が委嘱する。

- ・結婚相談の開設

アドバイザーによる結婚相談を原則毎週木曜日に開設し、登録会員への結婚相談等に応じた。

相談件数 41件 マッチング5件

- ・推進委員会の開催 関係機関への広報啓発及びセンターへの指導助言

第1回推進委員会（委嘱式） 10月 1日 元気交流ステーション

第2回推進委員会（報告） 3月 9日 //

- ・支援員研修会及び情報交換会の開催 結婚支援に対する必要な研修（婚活支援について、情報セキュリティ、コミュニケーション等）を開催し、支援員の資質向上を図るとともに、支援員間の情報共有の場を提供した。

全体研修会 10月 1日 元気交流ステーション

支援員研修会及び情報交換会 10月29日、11月26日、12月17日 //

支援員情報交換会 1月27日、3月 9日 //

- ・登録会員対象の講座（セミナー）開催 結婚に対する意識を上げるため、会員を対象にコミュニケーション研修（男性）や子どもを持つことの気運醸成を図るセミナー（女性）を開催した。

コミュニケーションスキルアップ講座（男性会員・支援員対象）

2月11日 元気交流ステーション

子どもとお菓子作りセミナー（女性会員対象） //

- ・事業啓発イベントの開催

ボランティアまつり広報啓発コーナー設置 11月15日 町民会館

スイーツパーティー 3月 1日 元気交流ステーション 42名参加